

ぴとアま

第18号
2016年2月

ニッタン アート ファイル
「NITTAN ART FILE インスピレーション」の
ニッタン ぼっかいどういぶり ひだかちいき
NITTANは、北海道胆振・日高地域のこです。
てんらんかい にったん かんけい ふか
この展覧会には、日胆と関係の深いアーティ
びじゆつさか ばんどうふみき がか ひさ
スト4人、美術作家の坂東史樹さん、画家の久
のしの えいぞうさつ か ふくもりたかひろ ちようこくか
野志乃さん、映像作家の福森崇広さん、彫刻家
きんぞくこうげい か ふじさわ さんか
・金属工芸家の藤沢レオさんが参加しました。

(坂東亜子記者)

NITTAN ART FILE インスピレーション

ひさのしのの こんかいてんじ え とまこまい やま みずうみ ちか
久野志乃さんが今回展示した絵は、苫小牧の山や 湖 の近くなど
をモチーフにして、すべて想像で描いたそう。一番大きい絵《新種の
もり はくぶつし か かげつ か いちばんおお え しんしゆ
森の博物誌》は3カ月で描いた。キャンバスから組み立て、下塗りを
2回したのに、3カ月しかかかっていないので、すごいと思った。
え なか にん ひと ちが ほうこう む
絵の中に4人の人がいる。でも、それぞれ違う方向を向いている。
そのことを聞くと、志乃さんは「みんな、それぞれに違う考えや
きも おな せかい ひようげん い
気持ちだけけど同じ世界にいることを表現している」と言った。

(宮脇寿珠記者)



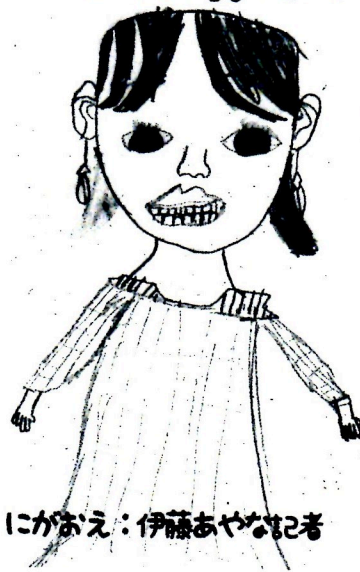
ひさのしの 久野志乃さんの作品は、^{とまごまい やま みすづみ たらま} 菅小牧の山・湖・樽前ガローなど、
^{とまごまい しぜん} 菅小牧の自然をモチーフにしています。

志乃さんはかならず「インディゴ」を使っています。「インディゴ」は
^{くろ あお} 黒と青の間の色で、^{いぞろ} かげを作るときに使っています。

《新種の森の博物誌》では、
^{みどり きいろ あお} 緑と黄色と青を特に使っていました。

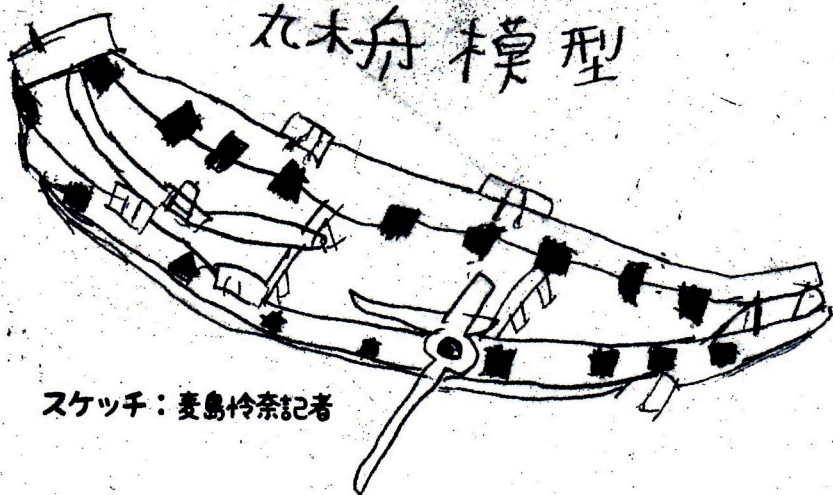
(伊藤なつみ記者)

ひさのしのさん



にがおえ：伊藤あやな記者

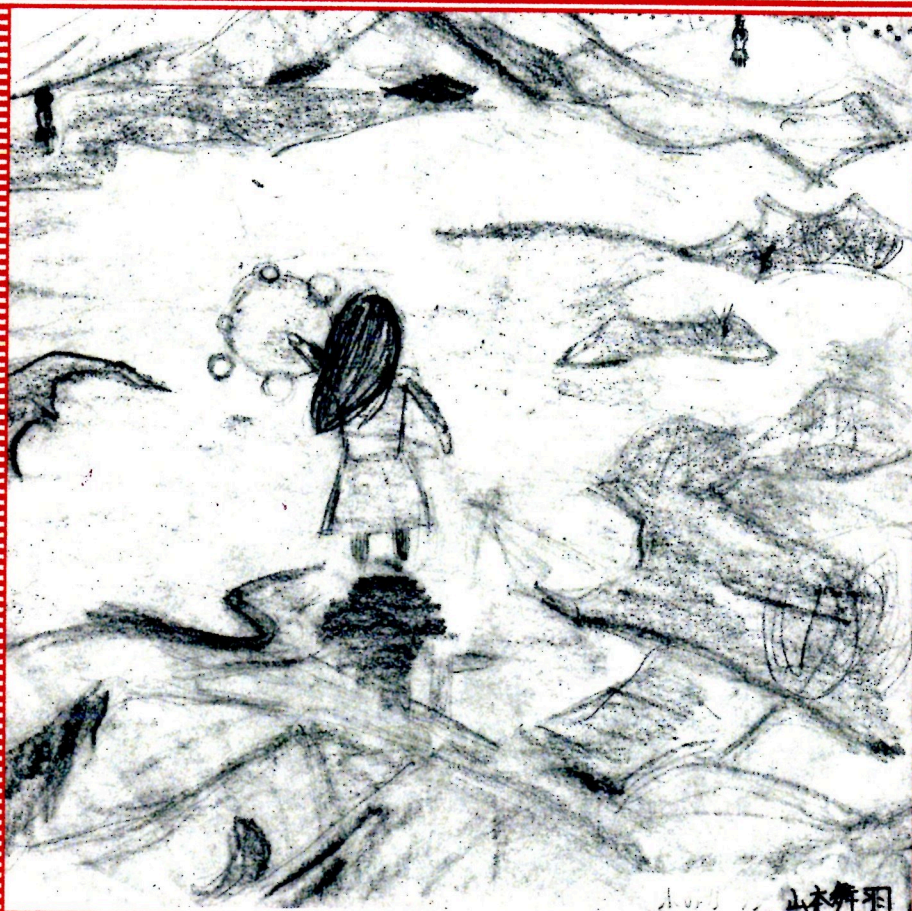
丸木舟 模型



スケッチ：菱島怜奈記者

ひさのしの 久野志乃さんの
^{しんしゆ もり はくぶつし} 《新種の森の博物誌》は
 きらきらして、きれいでした。

《氷のカーテン》は
^{なにか ひかり} 何かを光で見ているように見えました。
 (伊藤あやな記者)



山本舞羽

福森崇広さんは、一枚の絵を動かして、映像にしている。崇広さんは、そのことを「止まっている物に対して動かしてあげて命を与える」と言っていた。

映像は音も文字もあるからいろいろな表現ができるそうだ。今回の作品《home》について崇広さんが「字幕と映像が合っていないことに気づいた?」と言ったので、よく映像を見てみると本当にそうだった。「正解がないのは美術だから」とかっこいい名言を言ってくれた。
(宮脇寿珠記者)



福森さんにお話を聞く記者たち

福森崇広さんは、一枚の絵の色々な部分を映し、映像にするアーティストです。

アニメという言葉は『アニメ』が元になっていて、『アニメ』というのはラテン語で「命を与える」という意味なのだそう。

崇広さんの作品は、耳をかたむけるとおもしろい言葉が聞こえます。字幕と映像がまったく合っていません。なぜでしょう? 風景を撮ると、となりで(近くで)話している人の音声が入ってしまうのでそれを応用しているのだそうです。

(伊藤なつみ記者)

NITTAN ART FILE

インスピレーション

《その仔犬をポケットに

入れよ。旅を続けよう。》は坂東史樹さんの作品です。

展示されている部屋は暗く、作品が絵ではないのが新鮮に感じました。箱の中の立体的な作品で、漁港、歩道橋、家など、それぞれ細かく丁寧に作ってありました。歩道橋の周りには木やガードレールまで作られていて、裏も再現されていました。電話ボックスはボタンや電話帳のくたびれ感まで再現されていました。こんな作品を作れる人はすごいと思いました。

(熊谷陽奈記者)

坂東史樹さんの

《その仔犬をポケットに入れよ。

旅を続けよう。》は、一つ一つの箱に漁港、家などを細かく丁寧に作ってあって、すごいと思いました。とくに家の模型は、家の外に足もとやスキーがあって、びっくりしました。家の中にはコップやベッドも見えて、細かく作ってありました。町の景色には小さな文字や絵も描いてあって、ずっと見てしまいました。

(中村創介記者)

藤沢レオさんの《場の彫刻Ⅳ》は、
鉄でできた、あざやかな青色の作品です。

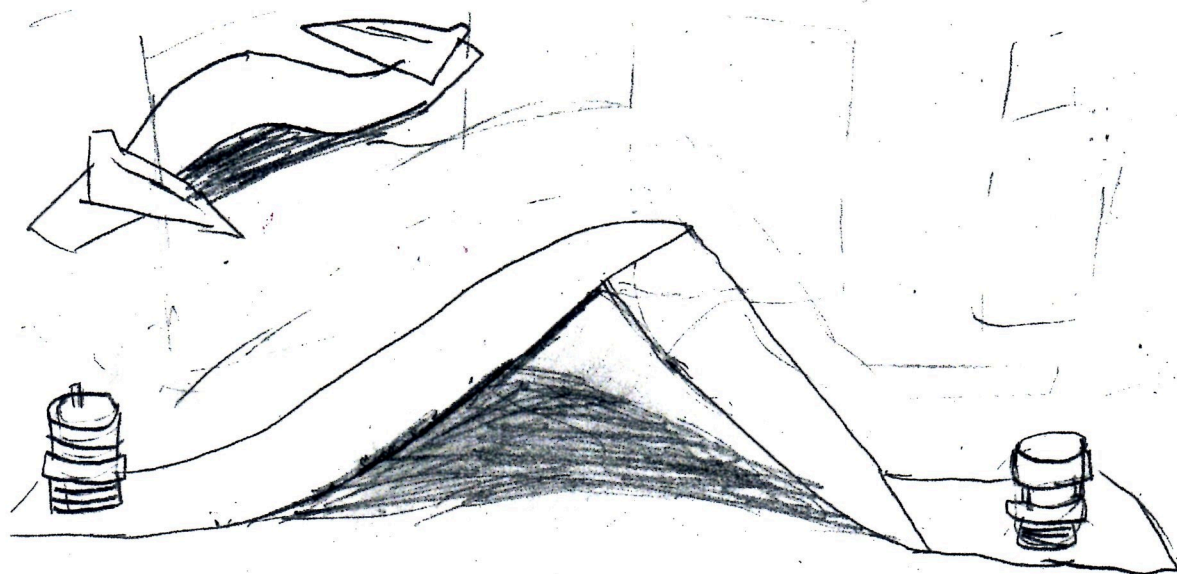
どんな気持ちで作ったのか、取材した。

「地球上の大きな力を表している。登りたくなるような作品にしたいと考えた。(注:実際はこの作品に登ることはできません。下をくぐることはできました。)紙と紙の両端から指で力を加えたときに真ん中がふくらむのと同じように作った。その場合の指を石うすにして表しています。指がないと紙は平らに戻ってしまう。」

レオさんの《場の彫刻Ⅳ》は、ライトにあたって、その影が太くなって、波のようにも見えた。そして、作品とその後ろにあるガラスにうつった作品とで「レ」の字にわかれているように見えた。一つの作品で、いろんな作品に見えた。(黒滝直人記者)

藤沢レオさんの作品展示室は暗く、ガラスが黒い鏡のように反射して部屋を広く見せていた。作品の下をくぐると景色など感じが違う。作品を盛り上げる(丘の形にする)ために、100kgの石うすを置いてあった。大きな地球を表現したい、苫小牧に丘を増やしたい、なだらかな丘は前向きな気持ちになる、といった思いから丘をイメージして作ったそうです。

レオさんは今回の展示で、公開制作中にお客さんと話をして思いついたことを手軽な黒板みたいな黒い紙に書いて壁に貼って、イメージをふくらませた。レオさんの制作の資料として、いろいろなイメージが描かれたこの黒い紙や、レオさんが白老で植切って買い、ふだんはアトリエに置いてある木彫りのクマも展示されていた。(突戸美友佳記者)



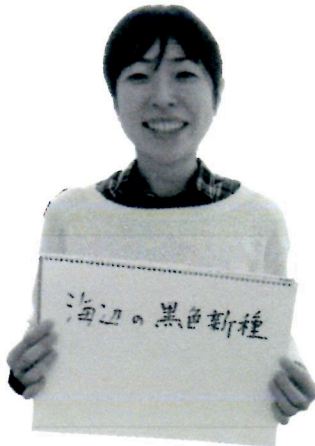
藤沢レオさんの《場の彫刻Ⅳ》

スケッチ: 妻島怜奈記者

アーティストたちが来てくれたよ♪

12月13日(土)、『びとこま』を作っているところに、画家の久野志乃さん、映像作家の福森崇広さん、陶芸家の上ノ大作さんが遊びに来てくれました。

ちなみに…彫刻家・金属工芸家の藤沢レオさんは、いつも一緒に『びとこま』を作っています。

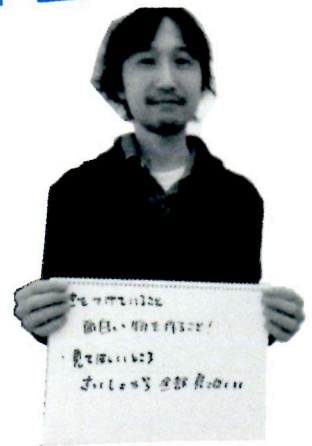


久野志乃さんは自然がたくさんあるところに行き、目の前に広がっている自然と想像を組み合わせて作品を作っています。今回の展示で一番大きな絵《新種の森の博物誌》では、樽前ローと湖と苫小牧市美術博物館に展示されている丸木舟がモチーフになっていました。

志乃さんは「みんな違う見方をしている」ということを大切に絵を描いています。(伊藤なつみ記者)

福森崇広さんは、名言の人です。話を聞くと…「正解がない。それが美術」「何かに置きかえることで個性が出てくる」「じんときて(心にひびいて)ほしい」などかっこいい言葉で思いを表現してくれて、たくさんの名言を聞くことができました。

(伊藤なつみ記者)



上ノ大作さんは、(木や土や気候など)持ちようを生かしてつくるよう気をつけています。木とねん土を合わせた作品が気に入っています。

お客さんには、作品を自由に見てほしいと思っています。

(中村創介記者)

遊びに来てくれたアーティストのみなさん取材して、アーティストは「人それぞれ違う考えを持っている」ということを大切にしている!!と強く感じました。

(伊藤なつみ記者)

「NITTAN ART FILE インスピレーション」を一緒に鑑賞したり、私たちの取材に答えていただいたり、楽しかったです。ありがとうございました。ぜひ、また遊びに来てください。

びとこま 記者

「びとこま」って？

「びとこま」とは びとこま びとこま市 し びとこま市 びとこま 美術博物館 びとこま びとこま市 びとこま の文化芸術 びとこま の「みりよく」を紹介する広報誌です。2011年からやっています♪
 名前は「美術館」と「苦小牧」を組み合わせています。

- (1) 募集期間 : 平成28年5月1日(日)～平成28年5月5日(火)
 9:30 から電話にて受け付けます。
 先着順。定員になり次第締切ります。
- (2) 定員 : 20名
- (3) 対象 : 小学校3年生から中学生
- (4) 活動期間 : 平成28年5月～平成29年2月
- (5) お申し込み : 苦小牧市美術館 TEL : 35-2550 FAX : 34-0408
- (6) スケジュール : 次のとおり予定していますが、日にちや内容が変わる場合があります。



びとこまの
 取材や編集だけじゃなく
 コレクション展をもいあげる
 カードづくりなどにも
 挑戦してもらいます！
 ますます面白くなるびとこまに
 君も参加しよう！！

- ①5月21日(土) オリエンテーション、名刺づくり、編集
- ②6月25日(土) 美術展鑑賞、取材、編集
- ③7月10日(日) 特別展鑑賞、取材、編集
- ④9月17日(土) 美術展鑑賞、取材、編集
- ⑤10月29日(土) 野外彫刻鑑賞、取材
- ⑥11月19日(土) コレクション展カードづくり、編集
- ⑦12月17日(土) コレクション展カードづくり
- ⑧2月11日(土) 反省会、修了式

ぴとこま

記者

募集中

ぴとこまに参加すると、
みんなに自分たちが作った
新聞やパンフレットを
見てもらえて、作家さんと
直接お話ができます。

(山田和佳記者)

ぴとこまの
いいところは

- ☆作家さんと交流できること
- ☆作家さんに取材できること
- ☆作家さんの似顔絵を描けること
- ☆作品の絵を描けること
- ☆パンフレットなどを作ること

いいこと、楽しいことがあるので
ぜひ来てください。

(黒滝直人記者)

ぴとこまには
作家さんが来てくれて、
作品についてくわしく聞けて
楽しめます。

友達もいっぱいできて楽しいので、
ぜひ来てください。

(中村創介記者)

友達もたくさんできます。

内容をまとめるときや
文章を書いているときなど、
たくさん話し合うのでとっても楽しいです。

ぴとこまは誰でも参加OK!です。

参加しなかったら、
後悔してしまうかもしれません。

ぜひ!

(宮脇寿珠記者)



ぴとこま記者になると、
作品を見て感想を書いたり、
来場者にインタビューして、
ポスターや新聞を作ります。
作家さんが遊びに来て、
似顔絵を描いたりして、
仲良くなったりできます。

(中村風香記者)

ぴとこまは、
作家さんに直接質問や
取材ができるので、
とてもいいと思います。
作家さんに直接聞くことで
見ただけではわからないことなど、
たくさん聞けます。
また、似顔絵などを描いているうちに
作家さんと仲良くなれたりもします。

(宮脇寿珠記者)

「ぴとこま」の
記者集まれ!

☆楽しかったこと

どの活動も楽しかったです。でも一番は…

「花ひらく近代洋画の世界」展のガイドブックを作ったことです！

私は少し大変だったけれど、絵を描く道具などについて調べるのを担当しました。ただ、絵を見るだけでなく、色々なことについて知れてよかったです。

☆つまんなかったこと

そんなになかったけど、「ちゃんとした友達」を作れなかったことに悔いが残っています。でも、びとこまの活動で「つままないなー」と思ったことはありません。

☆やってみたいこと、したいこと、願い

私は中学生になっても「美術館に来て色々な展覧会を見たい」と思います。願いは、「市内の小学生にもっともっと美術に興味を持ってほしい」です。

☆印象に残っている人

一人目は高臣大介さんです。ファッションが個性的で変わっていたからです。

二人目は藤沢レオさんです。「NITTAN ART FILE インスピレーション」展の時に作品や木彫りの熊の話などたくさん聞けたからです。

☆私の美術に対する思いの変化

びとこまに入る6年生までは美術に興味がなく、美術館にほとんど行きませんでした。ですが、びとこまに入ると「美術」って面白いと気づき、月1回ほど行くようになりました。

☆最後に

びとこまには5回しか行けなかったけど、美術に興味を持ったので入ってよかったと思います。最後に会えたのが昨年だと思つとさみしいです。私は4月から登別明日中等教育学校に通います。6年間、勉強・部活・色々頑張ります。もちろん、びとこまのみんなと活動したこと、ずっと忘れません。一年間、本当にありがとうございました！

豊川小6年 宍戸美友佳



宍戸記者が
びとこまに参加した感想を
書いてくれました。
紹介しま〜す♪

記者たちと

『びとこま』を作っている藤沢レオです。

今年は、ガラス作家の高臣大介さんをはじめ何人もアーティストが、『びとこま』を作っている所に、ひょっこり遊びに来てくれました。遊びに来てくれたアーティストたちは、自分の作品について話してくれたり、美術展をいっしょに鑑賞しながら、作品の見方を教えてくれたり。

『びとこま』を作っている時間は、もちろん楽しいけれど、アーティストたちと記者たちが一緒に過ごす時間も『びとこま』の楽しくて貴重で大切なひとときです。



にがおえ：山田和佳記者

びとこま第18号 (2016年3月発行)

- 発行：苦小牧市美術博物館
- 企画：NPO 法人樽前arty+
- 製作：苦小牧市美術博物館
こども広報部
NPO 法人樽前arty+
- 取材：荒井 聖、伊藤 なつみ、
伊藤 あやな、岡 藍良、
熊谷 陽奈、黒滝 直人、
宍戸 美友佳、中村 創介、
中村 風香、坂東 亜子、
坂東 菜那、本多 ころこ、
宮脇 寿珠、麦島 怜奈、
山田 和佳、山本 舞羽
- 編集：小河 けい(NPO 法人樽前arty+)